

事業群評価調書(平成30年度実施)

基本戦略名	9 快適で安全・安心な暮らしをつくる	事業群主管所属	土木部 道路維持課
施策名	(2) 犯罪や交通事故のない安全・安心なまちづくりの推進	課(室)長名	馬場 一孝
事業群名	③ 交通安全確保に向けた通学路等の整備	事業群関係課(室)	

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文)							(取組項目)			
通学路の安全確保のため、道路管理者、教育委員会及び警察が連携して緊急合同点検を実施し、対策が必要とされた箇所の交通安全対策を実施します。							i) 交通安全対策の推進、ビッグデータの活用による潜在的な事故危険箇所の抽出			
事業群	指標		基準年	H28	H29	H30	H31	H32	最終目標(年度)	(進捗状況の分析)
	歩道等の整備延長率(%)	目標値①		45%	60%	75%	90%	100%	100%(H32)	平成24年度に通学路の緊急合同点検を実施し、対策が必要とされた歩道等の整備計画延長は19.7kmである。交通安全施設等整備事業を推進して、平成29年度までに累計9.2kmの歩道整備が完了したが、用地取得に不測の時間を要しているため、整備延長率は46%にとどまり、目標達成率は77%であった。
		実績値②	15%(H26)	40%	46%				進捗状況	
		②/①		88%	76%				やや遅れ	

2. 29年度取組実績(H30新規・補正は参考記載)

事業 番号	取組 項目	事務事業名	事業 期間	事業費（単位:千円）			事 業 概 要		指標(上段:活動指標、下段:成果指標)					29年度事業の成果等	中核 事業
				H28実績	うち 一般財源	人件費 (参考)	事業対象	29年度事業の実施状況 (30年度新規・補正事業は事業内容)	指標	主な目標	H28目標	H28実績	達成率		
				H29実績							H29目標	H29実績			
				H30計画							H30目標				
1	取組 項目 i	交通安全対策の推進 (交通安全施設費)(公 共)	—	2,275,173	220	—	県管理道 路 利用 者	国道・県道の45箇所 で歩道等の整備を行 った。	活動 指標	実施箇所数	41	43	104%	緊急合同点検箇所の歩道等整備延長は、用地取得に不測の時間を要しており、累計で9.2kmと目標を下回ったが、歩道等の整備を行うことで、通学路の安全性の確保を図った。	○
				1,595,837	190	—					44	45	102%		
				2,749,494	281	—					50				
道路維持課		2,749,494	281	—	成果 指標	緊急合同点検箇所の歩道等整備延長(累計)(km)	8.9	8	89%						
10.9		9.2	84%												
14.8															
2		交通安全施設整備事業	—	1,267,077	6	45,115	県管理道 路 利用 者	国道・県道の83箇所 で小規模な歩道、防護柵、区画線等の整備を行 った。	活動 指標	実施箇所数	101	101	100%	小規模な歩道、防護柵、区画線等の整備を行うことで、安全性の確保を図った。小規模な歩道の整備延長は、用地買収に不測の日数を要したため、目標の93%と目標を下回ったが、歩道等の整備を行うことで、歩行者の安全性の確保を図った。	
				809,700	100	33,793					82	83	101%		
				783,563	163	28,786					97				
道路維持課		783,563	163	28,786	成果 指標	小規模な歩道整備延長(km)	0.9	1.1	122%						
1.4		1.3	92%												
1.2															
3		交通安全施設調査費	—	5,670	5,670	0	県管理道 路 利用 者	県警が保有する交通事故データと交通量などの道路交通環境等のデータを結合したマッチングデータを作成することで、死傷事故率や事故多発箇所を把握した。	活動 指標	マッチングデータの作成(式)	1	1	100%	死傷事故率や事故多発箇所を把握することで、新たに交通安全施設整備事業として活用した。	
				4,536	4,536	0					1	1	100%		
	4,082			4,082	0	1									
道路維持課		4,082	4,082	0	成果 指標	事業に活用した件数	数値目標なし	17	—						
数値目標なし	9	—													
数値目標なし															

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i)交通安全対策の推進、ビッグデータの活用による潜在的な事故危険箇所の抽出

交通安全対策の推進については、歩道等の整備を行うことで、通学路の安全性の確保を図り、交通事故のない安全・安心なまちづくりの推進に寄与しているが、公共の歩道整備について、用地取得に不測の時間を要したため整備延長率が目標を達成できなかった。引き続き粘り強く交渉を重ね、早期の整備完了を図る。

今後も、引き続き安全・安心なまちづくりをより一層推進するために、交通安全施設等整備事業、交通安全調査費を継続する。

また、事故が起きてからの「事後対策」のみではなく、「事前対策」を進めるために、ビッグデータを用いた潜在的な事故危険箇所の整備を行う。

4. 30年度見直し内容及び31年度実施に向けた方向性

事業番号	取組項目	事務事業名	30年度事業の実施にあたり見直した内容 (H30の新たな取組は「H30新規」等と記載、見直しがない場合は「－」と記載)	31年度事業の実施に向けた方向性		
				事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
2	取組項目i	交通安全施設整備事業	—	—	通学路の安全性の確保が求められている状況に変わりはなく、引き続き小規模な歩道、防護柵、区画線等の整備を進める必要がある。	現状維持
3		交通安全施設調査費	—	—	本事業は危険箇所等を把握するために必要な調査であり、引き続き事業を継続するとともに、対策を行った潜在的な事故危険箇所の効果計測などの検証を行って、ビッグデータ活用の可能性検証を進める。	現状維持

注：「2. 29年度取組実績」に記載している事業のうち、H29年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。

② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。

③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。

④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。

⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。

⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。

⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。

⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。

⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。

⑩ その他の視点